

基本構想・基本計画に関する調査特別委員会会議録

1. 日 時 令和7年年6月27日（金）
2. 場 所 白井市役所東庁舎4階 議場
3. 付託事件 日程第 1 議案第14号 白井市第6次総合計画基本構想について
4. 出席委員 岩 田 典 之 委 員 長・石 原 淑 行 副 委 員 長
広 沢 修 司 委 員・柴 田 圭 子 委 員
古 澤 由 紀 子 委 員・石 井 恵 子 委 員
長谷川 則 夫 委 員・田 中 和 八 委 員
小田川 敦 子 委 員・平 田 新 子 委 員
徳 本 光 香 委 員・荒 井 靖 行 委 員
久保田 江 美 委 員・石 田 里 美 委 員
武 藤 美 砂 子 委 員・根 本 敦 子 委 員
伊 藤 仁 議 長
5. 欠席委員 な し
6. 説明のための出席者
市執行部
市 長 笠 井 喜久雄
企画財政部長 板 橋 章
企画政策課長 村 越 貴 之
7. 会議の経過 別紙のとおり
8. 議会事務局 局 長 松 岡 正 純
係 長 會 卓 也
主 事 金 子 直 史

会 議 の 経 過

開会 午前10時00分

○松岡正純議会議務局長 定刻となりましたので、始めさせていただきます。

会議に先立ちまして、岩田委員長より御挨拶をお願いいたします。

○岩田典之委員長 皆さんおはようございます。今日は基本構想の討論、それから採決ということですけれども、採決はともかく、何か基本構想について言いたいこと、意見といいますか、発言したいことがある人は、7月1日の本会議でもありますけれども、ぜひ発言をしていただきたいと思います。

〔「2回していいんですか」と言う者あり〕

○岩田典之委員長 いや、討論は1回だけです。7月1日か今日かどちらか1回だけ。よろしくお願いします。以上です。

○松岡正純議会議務局長 ありがとうございます。

それでは、委員会会議につき、議事等の進行につきましては、岩田委員長をお願いいたします。

○岩田典之委員長 ただいまの出席委員は16名です。委員会条例第16条の規定により、定足数に達しておりますので、これより基本構想・基本計画に関する調査特別委員会を開会いたします。

これから、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付の日程表のとおりでございます。

日程第1 議案第14号 白井市第6次総合計画基本構想について

○岩田典之委員長 これから日程に入ります。

日程第1 議案第14号 白井市第6次総合計画基本構想についてを議題とします。

これから議案第14号 白井市第6次総合計画基本構想について討論を行います。

初めに、反対討論の方ございますか。

徳本委員。

○徳本光香委員 日本共産党市議団として、代表して、議案第14号 白井市第6次総合計画基本構想について反対の討論をいたします。

まず、今回小学生をはじめ、子どもたちや若者、それから年代を超えた幅広い市民との意見交換会やワークショップを開いて、市長自身も職員たちも直接の意見聴取に努めたということは、傍聴もさせていただいて、とても評価しています。総合計画をつくるに当たって、市長のユーチューブチャンネルも本当に分かりやすかったし、だからこそ、それらの意見がどういうふうにもこの構想に反映されるかというのを期待もしていましたし、それも含めて今年度予算にも既に取り入れられた子どもたちの意見などもあったので、それ自体は評価しています。

まず、反対理由というのは一つだけなんです。大きく言って本当に一つです。市民の思いをどれだけくんで反映させた基本構想かという点で、やむなく反対という結論に至りました。

まず、第5次総合計画の策定に当たって、序論という資料について申し上げます。これは今朝もサイドボックスに載っていませんでしたので、ずっと待っていたんですけども載らなかったのも、事務局に頼んで載せていただきましたので、皆さんぜひ開いてください。

この序論をなぜ審議当日に出したのか。とても重要な情報が載っていました。これを事前に読めなかったのは本当に最悪だなと私たちは思っています、市議団として。審議の場に参加した部課長は分かると思いますが、私たちは何よりも前の第5次総合計画の期間の10年間、市がそれらの事業をどう評価して、反省を踏まえて次に生かすといった第6次計画をつくるかというのが最も重要だという立場で質問をしていました。

しかし、交通問題に関しても、これを反省して真っ先にやりますとか、はっきりした第5次と第6次総合計画のつながりというのが分かる答えは返ってきませんでした。けれども、この序論を見ると、市の重要な事業に対する市民の評価がちゃんと載っていますし、市の内部評価、外部評価もまとめられています。これが審議の当日に配られたために、審議後に根本委員と熟読して気づいたことがとても多くて、審議をやり直す必要があると思うぐらいの重大な資料の欠如だったと思っていますし、当日に謝って出して済む問題ではないと思っています。

以下、序論を読んで、市の第5次総合計画の内容の評価も見た上で、今回判断する第6次総合計画の基本構想について問題だと考える点を述べたいと思います。

まず、序論の4ページを御覧ください。下の段、3の1、「都市拠点にぎわうまちづくり」のところは、市の内部評価が「おおむね順調」となっていて、外部評価は「やや優れている」となっています。だから、いい評価のほうということです。

しかし、序論の9ページを御覧ください。9ページのほうには、市議会としてはよく見る図ですが、全市民を対象として、52の項目の施策について、市民が考える満足度と重要度のアンケート結果がとても分かりやすく図になっています。このアンケートの下の方の30番に、「商店街や工業団地などの活性化の支援」とあります。これが「都市拠点にぎわうまちづくり」ということなんですけれども、さっき、「おおむね順調」「やや優れている」という市の評価でしたが、市民の評価のほうでは、これは白黒だからとても見づらいんですけども、改善分野、今後の重要度が低く現状評価も低いというところの一番上の真ん中辺りに30番と書いてあるんです。つまり、市はいい評価をしているけれども、市民としては現状評価は低いというほうに入っているんです。評価がずれているんです。

もう1つ、とても大きく市民と市の感覚がずれている事業があります。それは、序論で言うと4ページ、一番下の重点戦略3の3、(3)の「利便性のよい公共交通ネットワークの確保」というところなんです。これは言うまでもなく北総線やバスの問題だと思います。この総括、評価というのは、さらに市民の意識調査と大きく食い違っているんですが、市が示した内部評価は、4ページを見ますと、「おおむね順調」「やや優れている」と内外の評価はなっています。ただ、これも序論の9ページの図にいきますと、下の段だと、下の一覧では「北総線運賃」は47番です。「バスの利便性向上の取組」は48番なんです。上のほうの図を見ますと、これも見慣れた配置ですが、「北総線の高い運賃の対策事業」

というのが最も重要度が高く、最も満足度が低いというところに依然としてあります。その右下に、「バスの不便さへの問題」というものもあります。両方ともすごく重要で、でもまだ不満だというのが市民の結果ですが、市はよく評価しているということでした。

この図は2024年の白井市民への住民意識調査の結果から作られていますので、2022年秋からの北総線の大幅運賃値下げ後も、学生定期代などに関しては不満が大分減ったと思いますが、普通運賃などについては不満と重要だと思う度合いは依然として変わっていないということが示されています。それなのに、順調だ、優れているというほうに判断してしまっている。

序論の10ページの下のほうを御覧ください。高校生のアンケートで、3)「公共交通の不便さに対する不満」というのが記載されています。高校生の約半数が卒業後に白井を出たいと考えていて、主な理由は通勤や生活上の交通の不便さを挙げていると書いています。

序論の12ページ、ワークショップの意見一覧があります。上から3番目の、「誰でも移動しやすい交通環境」という項目に至っては、マイナスの市民の意見しか抜粋されていません。いいものもあれば1つぐらい出していいと思うんですが、「免許を返したら移動手段がなくなってしまう」「不便で外に出ないから健康にも影響がある」とまで書いてあります。

こういったことを踏まえば、北総線とバスの問題の対策というのは決して今までの第5次総合計画の10年間に順調であったとは言えないし、これらの不満の高さも解消されていないので、次にはもう本当に真っ先に解決するという分析や総括、それから基本構想への反映が必要な重要課題だと私たちは思っています。

けれども、序論の7ページを御覧ください。交通について書いてありますが、北総線運賃が下がったことや便利さの魅力について書いてあります。これは事実ですが、高運賃がまだ不満になっているということは書いていないし、バス減便や廃線などについて、現状は書いてありますけれども、じゃあ解決のために何が必要かということは、序論にも書いていないし、基本構想にも書いていません。

今現在、日曜祝日にナッシー号が走っていないことで、既にも買物ができないという訴えもあったり、切実な問題になっています。運転手不足というのも、市長もワークショップでよく市民への回答としておっしゃっていましたが、それを理由に述べるより先に、もっと増やす施策を示すべきだと思っています。

基本構想の資料の4ページ、ここには市民のアンケートや意見交換会をたくさんやったその結果で、「今後10年間の重要なテーマ」というのを挙げています。この中の1番目に、「若い世代や子育て世代への支援の充実」というのが書かれていて、8番目に「移動・交通問題」というのがあります。やはりこれは真っ先に1番目の項目を重視しているというふうに見えるんですけども、この10の課題のページも、私が最も基本構想で違和感を覚えたページです。たくさんの市民の意見を反映して抽出した課題のはずなのに、何だか授業の講義とか一般論を書いているような、こういうふうに求められています、重要ですと書いてあるんです。本当に市民が言っている言葉だという危機感とかが感じられない内容になっていて、誰に向けて書いた基本構想なのかという質問もここから来ています。

皆さんからこんな意見が出たからここを真っ先にやるという、審議の中でも意見が出ましたが、意気込みのようなものが感じられない。何千万円もかけてコンサルタントに任せたからこういうふうになってしまったのか、それとも、市の職員が直接聞いた声をうまく込められなかったのか分かりませんけれども、これだと市の意気込みは感じられないと思っています。

そして、基本構想の8ページの中でも、②のところに、「誰もが交流し合えるまち」というのがあります。そこでは、一番下の行に、「誰もが気軽に移動できる環境づくりを推進する」とありまして、これがバスとか北総線に当たるとは思うんですけども、先ほど述べたように、市民の一番の不满で関心事であり続けている交通問題というのが、私としては人口減を食い止める、6万人以下にしないという今回の計画の中でも、本当は一番重要なものなんじゃないかと思っています。

もう1つの反対理由は、これも市民の思いというのに関連はしていますが、この基本構想の内容にとっても矛盾がある箇所があると思っています。基本構想の4ページの下の部分、「誰もが健康を維持できるように」とありますし、5ページの一番上の(3)にも、「良好な住環境の維持・整備」とあります。そして、同じ5ページの中に、「データセンターなどの企業誘致」という言葉があります。7ページの「挑戦する」という項目の中にも、また「データセンター」という言葉が出てきます。

しかし、5ページの「守り」の中には、「豊かな自然環境や千葉ニュータウン事業で整備された良好な住環境を守る」とあります。つまり、ここが既に矛盾を抱えていると思っています。今まさに桜台と富ヶ谷地区で住環境がデータセンター建設によって破壊されるという住民の声が起こっている中で、あるところではすばらしい住環境を守りますと書き、あるところでは、こんなに北総線とバスの問題はその単語も出てこない基本構想、大きなざっくりとした構想の中で、データセンターという具体的な業種だけは2度も出てくるというのは、とても住環境を守る、市民の声を聞くということと矛盾した姿勢を私は読み取りました。

データセンターは事故が起きるかもしれません。避難経路も不十分で、環境面でも目標達成、CO₂を出さないという目標も達成できないかもしれない。この大きな2つのデータセンターだったら、CO₂排出量は市が目標とするものの二、三倍になるかもしれないという試算を出した市民の指摘もあるんです。つまり、この点だけでも目標それぞれは達成できないものを挙げてしまっていると思います。

交通問題、データセンター問題に代表して、本当にたくさん聞いた市民の声を的確に総括した上で第6次総合計画基本構想をつくれたのかという視点で読み取ったときに、私はもう一番重要なことが抜けてしまっている総括の上につくった構想だと思いました。

よって、日本共産党市議団として反対いたします。以上です。

○岩田典之委員長 次に、賛成討論の方ございますか。

平田委員。

○平田新子委員 賛成の立場で討論させていただきます。

まず社会情勢を考えてみますと、人口減少、少子高齢化では、あらゆる分野での人材不足とサービ

ス内容の低下、あるいは変容を余儀なくされており、また、食品やエネルギーといった生活に直結した物の値段がどんどん上がり、加えて大災害や国際社会の不安定さが、これから先、何が起こるか分からないという様相を呈している昨今でございます。

白井市におきましては、人口減少、特に高齢化、超高齢化、あるいは公共施設やインフラの老朽化、ニュータウンが開所して45年余り経過している中で、市の財政力、そして、人口6万人強だからこそできる人と人の絆の強化が大きな課題だと思います。

これから10年後の課題に、市は、質問いたしましたら、危機感を持って対応しているという答弁をいただきました。危機感を覚えながら何もしないわけにはいかない。何もしないとどうなるかは分かった上での、若い世代あるいは市民の声をしっかりと聞きながら、人口バランスや税収源の確保などを推進しながら、持続可能な白井市であり続けること、少ない財源を市民のためにどう優先順位をつけて実行していくのか、集中と選択の方向性を示す基本構想がこれだと思っております。

6年ほど前からずっと企業誘致、産業振興、雇用の創出、毎回繰り返し訴えてまいりましたが、それぞれの課題には基本計画や個別計画がひもづいていくものと承知しております。社会情勢の変化にフレキシブルな対応を図りながら、産官学の連携、官民の連携、そして庁内各部署の連携を通じて、そういったことを含めてこれから10年の方向性を示す基本構想に賛成いたします。

以上です。

○岩田典之委員長 次に、反対討論の方はございますか。

ほかに討論はありますか。

広沢委員。

○広沢修司委員 議案第14号について、賛成の立場から討論いたします。

この構想は、令和8年度から10年間の白井市の方向性を定める最上位計画であり、「世代を超えた笑顔と豊かさを未来へつなぐまち」という将来像の下、「6つの目指すまち」を柱に構成されています。

構想は、人口減少や高齢化、環境変動、地域の担い手不足といった課題に対し、分野横断的に整備された施策の方向性を示しています。中でも、子ども・子育て支援、教育環境の充実、若い世代への支援に注力しており、少子化対策への明確な意思が示されています。これは単なる福祉ではなく、未来への投資として、本市の将来像を支える重要な視点です。

さらに本構想は、市民意識調査やワークショップ、パブリックコメントなど、市民参加を経て策定されたことも大きな意義があります。共につくる姿勢が信頼の基盤となり、計画の実効性を高めるものと考えます。もちろん構想が実効性を持つには、今後の実施計画との連動や進捗管理が重要であり、議会としてのチェックと提言の役割を果たしてまいります。

以上の理由から、私は本議案に賛成し、構想に込められた理念と方針が将来の白井市を支える実効ある施策として結実することを強く願い、賛成討論といたします。

○岩田典之委員長 ほかに討論はありますか。

長谷川委員。

○長谷川則夫委員 議案第14号、基本構想に関して、賛成の立場で討論をいたします。

この構想に対しては、おおむね良好な基本構想と捉えています。おおむねと申し上げたのは、気になる点が2つあるからです。

その1つは、「今後10年間の重要なテーマ」の「移動・交通手段の確保」、これは交通空白地の解消と住民の要望が相反する状態となっています。運転手不足が進む中、合意形成が重要と考えています。

また、将来都市構想では、第5次基本構想からの構想道路が見込まれていますが、基本計画、実施計画に移行しなかったことから、付近の開発が先行し、集合住宅が建設された地域もあります。実現が危ぶまれる状態になっています。構想から基本計画への移行等を願って、賛成の討論といたします。

○岩田典之委員長 ほかに討論の方ございますか。

田中委員。

○田中和八委員 議案第14号に賛成の立場で討論をいたします。

賛否を決めるため、先日の質疑において、7の2、「将来都市構造」について1点だけ確認させていただきました。今までの農地・環境保全地域が、今回は前向きな「地域の魅力活用エリア」として記載されております。地域の特性や魅力を生かしたまちづくりを進めるとあります。この1点を評価し、賛成いたします。

○岩田典之委員長 ほかに討論の方ございますか。

〔「なし」と言う者あり〕

○岩田典之委員長 これで討論を終わります。

これから議案第14号 白井市第6次総合計画基本構想についてを採決いたします。

基本構想・基本計画に関する調査特別委員会に付託された議案第14号は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○岩田典之委員長 起立多数です。

したがって、当委員会に付託された議案第14号は原案のとおり可決されました。

以上で当委員会に付託されました案件の審議は全て終了いたしました。

よって、基本構想・基本計画に関する調査特別委員会を閉会いたします。慎重なる御審議を賜りまして誠にありがとうございました。

閉会 午前10時24分

以上、会議の顛末を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

令和7年 月 日

白井市基本構想・基本計画に関する調査特別委員長